



平成 28 年度第二委員会行政視察 復命

2 番 三田 忠男

標記の件、7 月 13 日から 15 日にかけて、下記の通り行政視察に行きましたので、復命致します。

記

1. 三春町立三春中学校の学年型教科教室による学校運営について

感想：行き交う生徒の挨拶がすがすがしい。建物がゆとりを感じ広々としていて、落ち着きを感じました。専門分野の教室の設備が行き届いていてゆったりしていました。教科型での授業の結果、学力が上がり、進学レベルが高くなると思っていましたが、設備や環境は必要条件であるが、十分条件で無く、教師の授業力、教授力が最も大切なものとおもいました。

ただ、環境的に十分配慮することにより、生徒の学ぶ意欲を引き出したり教師が赴任を希望する率が高くなるよう感じました。

これから 50 年以上～80 年先まで使える学校を建設するのであるから、世界の動向と日本の進むべき方向を的確に判断し理念と運営方針、期待される職員像、教育目標を定め、目標とする生徒像を具体化するハード面において、どのような基本設計、細部設計を考えていくことが大切だと思います。

そのためには、市民・保護者に情報と情報を共有化し、協議しながら進めていく必要が有ると考えます。

スクールバスが、6 台配備していた事は、通学不便の伊豆市も、検討の余地が有ると思いました。

参考資料：全国平均を上回る学力、高い授業の理解度 87%、教科型教室の授業は効果が高まると考える生徒 86%

2. 大熊町の避難している中での福祉・教育の現状について

感想；伊豆市がいかに平和か、震災がいかに日常生活を破壊し、人間関係を断ち切り、精神を蝕むのかを考えさせられました。震災を風化させてはいけない。被災地の被災者の思いを受け止め、教訓化し、災害に対する備えの必要性を議員一人ひとりの言葉から感じるものが有りました。

各地区での被災を前提とした、日ごろの生活の見直し、区の準備、行政としての備え、県・国への要望等一から見直す必要を感じました。

災害ボラセンターに所属し、災害ボラに加入し、区では、消防協力隊を発足させ、活動していますが、まだまだ真剣みが足りないと感じた視察でした。

専門分野の福祉避難所等の立ち上げ、運営等見分を深め知見を蓄え、実際の立ち上げ訓練を行い、シュミレーションを繰り返す必要を感じます。具体的な、提言活動を行いたいと思います。

3. 郡山市認知症総合支援事業について

感想：今までの知見を超えた、きめ細やかで、切れ目のない、役所を横断的に繋ぎ、首長の意向を受け、専門職職員とマネジメント能力の高い事務方上司の意欲的な取り組みを学びました。

各事業自体は、伊豆市の行政が出来ないことが無いと感じましたが、伊豆市で、なぜやっていないのか？できないのか？考えさせられました。

他の部署にまたがる施策は、職員の間関係と意欲とマネジメント能力に影響されると思いますが、上司自ら交渉に出かける身の軽さが成功の秘訣と思いました。

伊豆市でもすぐにでも施策に取り入れたいと思いました。

4. 全体的な感想：行政は、職員の現場の声を大事にする。住民に真摯に向き合う。知見を広めるため、自己研さんを欠かさない。部門長は他分野の部門長との調整役を担う。市長を納得させるよう、住民の意向を常に把握して置き、理論武装と数字的な根拠を常に手元に準備しておく

議員は、このような職員を援護し、自己研さんし知見を深め、住民目線で質疑する。住民と議員と行政マンが、協働作業で政策を創造し、実現し、改善していく。

市民は、必要な物は要望し、おかしいものは改善を要望し、素晴らしいと思うものは評価し頂きたいと思いました。

行政視察の伊豆市との比較の中で、伊豆市の方が進んでいる事業もありました。評価すべき事業はマスコミに積極的に情報を提供し市民に周知すべきだと思います。

議会事務局の業務支援で素晴らしい行政視察が出来ましたことを感謝いたします。この知見を議会活動に取り入れ、より良い市民生活の向上に寄与したいと思います。

以上